
癖（くせ）

ミュキハルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
癖くせ

【Nコード】
N7709Q

【作者名】
ミユキハルト

【あらすじ】
慧けいと美夏みかのお話。

大好きな人の癖を見つけると嬉しくなるもの。だけど……。

炬燵に入ってミカンを食べるのは、冬の醍醐味です。

(前書き)

癖って、

見つけやすそうですが、なかなか見つからないものです。

さて、そのことに2人は気づいているのかな？

そもそも癖は、自分じゃ気づかない。
だから、大好きな人の癖を見つけたときは何だか嬉しくなる。

美夏は炬燵に入ってぬくぬくと温まりながら、向かいに座る彼を見ていた。

「慧くんのそれって、癖だよな？」

「ん？」

慧は、キレイに皮を剥いて蜜柑を食べていた。

「うん、美味しい」と幸せそうに笑んで、また一粒、丁寧に皮を剥き始める。

あの薄い甘皮を。

「……よく、そんなキレイにむけるよね。感心しちゃう」

美夏が見つめる先で、キラキラと光る実がまたパクリと彼の唇の向こうへ消えた。

「普通だよ」

「フツー、メンドーだよ。何でわざわざ甘皮をむくの？」

「歯に引っ掛かるから。あと、なんか気持ち悪いから」

「わたしのおばあちゃんもそう言うけど、口に入れてから皮を出してたよ」

「こつ、と言って美夏は一粒口に啣える。

「ほら、ブドウを食べるみたいに。ね、簡単でしょ？」

残った甘皮を、剥いた外皮の上に置く。

それを見て、慧は顔をしかめた。

「汚い」

「え？」

「食べた後の見た目が好きじゃない」

それは果肉だけが無くなった無惨な残骸だ、と慧は首を横に振った。

「それに、僕は葡萄の皮も先に剥いてから食べる」

「……そっか」

「だから、これは僕の癖というよりも習慣だ」

ふうん、と美夏は唇を尖らせた。

何だか少し気落ちした。

ふと、慧の手元が目に残った。

「じゃあ、そうやって皮に包むのは？」

ちょうど、慧は蜜柑を食べ終えて捨てようとしているところだった。

彼は必ず剥いた蜜柑の外皮に、残った甘皮をキチンと包み、ゴミ箱へ捨てるのだ。

ちなみに美夏は、包まず捨てる。

慧は頬を掻いた。

「癖、かな」

「だよね！」

「随分と嬉しそうだね」

「そう？」

頬が緩むのを感じながらも、美夏は何でもないよとつぶいた。

「ふうん」

慧は意味深に目を細めて、肘をついて組んだ指に顎を乗せた。

その仕種に、美夏はいつもドキリとする。

「あのさ、美夏は自分の癖を知ってる？」

「……すぐには思いつかないけど、爪を噛んじゃうこととか」

「他には？」

「椅子に座ったら足を組むとか」

「他は？」

矢継ぎ早に訊いてくるので、美夏は困惑した。

「そんなに早く答えられないよ。癖って、自分じゃ気づきにくいものでしょ？」

「うん、その通り」

慧は、籠の中に山積みになっている蜜柑を一つ手に取った。

外皮を剥く音。彼は丁寧に剥いていく。筋も甘皮も器用に剥いて、露になった瑞々しい橙色の実をゆっくりと、まるで宝石を扱うように口へ運んだ。

「やっぱり好きだな」

彼の好物は蜜柑。一日に五個は食べている。

美味しそうに幸せそうに、子供のように笑う彼が好きだ。

その笑顔を見るのが大好きだ。

「ほら」

二個目を食べ終わって、慧はまた組んだ指に顎を寄せた。

「それが美夏の癖だよ」

「え？」

「僕が蜜柑を食べる時、美夏は必ず僕を見るんだ」

そんな風に、やさしく微笑んで。

「正直、人に見つめられながら食べるのは苦手だ。でも美夏なら……どうかした？」

自分では気が付かないことを誰かに言い当てられるのは、とても

恥ずかしい。

でも癖を言い当てられるのは、それだけ相手が自分のことを見ているということだ。

彼は笑った。

「緊張した時に髪を弄るのが美夏の癖。それを見てニヤニヤするのが僕の癖だよ」

(後書き)

慧くん、性格悪いですよね(笑)

きつと、美夏に見られるより、美夏を見ていたいんだと思います。

あれでも照れてるんです、彼……(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7709q/>

癖（くせ）

2011年10月8日17時53分発行